

古津八幡山遺跡発掘調査速報展

2019 4.23 (火) ▶ 6.2 (日)

企画展開催にあたって

古津八幡山遺跡は弥生時代から古墳時代にかけての日本列島の社会情勢や地域の歴史を考える上で核となる重要な遺跡であることから、平成 17 年に国史跡に指定されました。また、古墳のある場所については平成 23 年に追加指定されています。

古津八幡山遺跡ではこれまでに計 21 回の発掘調査を行っています。発掘調査成果をもとに平成 20 年から順次整備を行い、第 1 次整備（弥生時代の復元ゾーン）、第 2 次整備（古墳時代の復元ゾーン）が終わった平成 27 年から「古津八幡山遺跡歴史の広場」として一般公開・活用を行っています。

史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡内外における遺跡の状況を把握することを目的とした発掘調査を平成 29 年度から行っており、重要な成果が得られています。本企画展では、この平成 29・30 年度に実施した発掘調査（第 20・21 次発掘調査）の最新成果を中心に紹介します。

本企画展で使用する時代などの名称について

本企画展では弥生時代について前期、中期、後期、終末期の4時期に区分しています。今回の展示の中心となるのは、このうちの弥生時代後期と終末期で、邪馬台国の女王、卑弥呼が生きた時代と一部重なる時期となります。なお、弥生時代の終末期については古墳時代早期と呼ぶ場合もあります。弥生時代の実年代については諸説ありますが、弥生時代後期のはじまりは紀元後すぐくらい、古墳時代前期のはじまりは西暦250年くらいと推測されます。

新潟県における主な古墳 ※白抜きは横穴系の埋葬施設・右数値は規模（m）

時期区分	時期		阿賀北	信濃川左岸			信濃川右岸			魚野川流域	柏崎平野	頸城平野		佐渡
	古墳集成順年	須恵器		信濃川河口付近	弥生・角田山麓	島崎川・西山丘陵周辺	新津丘陵	東山丘陵（三条周辺）	東山丘陵（長岡周辺）			西部	東部	
1	前古墳期					座師塚 ■10 奈良崎1号 ■11 奈良崎3号 ■10	古津八幡山 ■6					矢代山 ■18	子安 ■12	
	古墳前期					蛇入南 ■7			横山 ■13					
	古墳中期		正尺 ■5 二本松 東山1 ●16				古津八幡山 ■13						子安 ●8	
	古墳後期												子安 ●10	
300	前期	1期			稲場塚 ●27	大久保1 ▼25						観音平1 ▼27		
	2期				山谷 ●37	大久保2 ▼18		三王山4 ▼16				観音平4 ▼34		
	3期		城の山 ●42	竊立八幡 ●30	富澤塚 ●54 観音山 ●26	奈良町1 ●18		三王山11 ●22 三王山1 ●38	麻生田1 ●19		古井戸塚1 ▼32			
	4期						古津八幡山 ●60						丸山 ●20	
400	前期	5期	T G 232							馬場山 27 ●36				
	6期		T K 73	牡丹山 ●30						馬場山 65 ●11				
	7期	T K 216 ~ T K 208								馬場山 10 ●36				
	8期	T K 23 ~ T K 47												
500	前期	9期	MT15 ~ TK10	浦田山 2 ○7.5				三王山5 ●14 三王山12 ●13.5						
	後期	10期	MT85 ~ TK43							雄塚1 ○10		梨ノ木1 ○16	菅原31 ○29	台ノ鼻 ○10
	飛鳥時代		T K 209 T K 217 ~			大塚塚 ○15				南山1 南山2 ○	西保2 ○15.5 谷内橋1 ○10	宮口11 ○11 水科21 ○10.5	クラマキ5 ○11 三貫目沢集 育ノ沢	
	飛鳥時代													
600	前期													
	後期													
	飛鳥時代													
	飛鳥時代													

〔実測1991〕

〔図記1981〕

※実年代観や時期区分、古墳の位置付けについては様々な見解があります。今後の調査や研究によって、古墳の形や規模、年代が変わる可能性があります。

古墳時代前後の時代名称と新潟県のおもな古墳

平成 29・30 年度の発掘調査（第 20・21 次発掘調査）について

平成 29・30 年度は、遺跡北東域の史跡指定地外（隣接地）の場所において発掘調査（第 20・21 次調査）を実施しました。調査地は標高約 50m の遺跡最高所から北東へ一段下がった丘陵中腹域にあたり、標高約 25m の平坦面及び緩斜面域に位置します。これまでの発掘調査や地形の状況などから、弥生時代の集落が史跡外北東域に広がる可能性があることが以前から指摘されており、それを確認するための発掘調査でした。発掘調査の結果、古津八幡山遺跡で初となる掘立柱建物や、古津八幡山遺跡で最大の竪穴住居が発見されるなど、古津八幡山遺跡をはじめ、当時の社会情勢を考えるうえで非常に大きな成果がありました。



古津八幡山遺跡空中写真

弥生時代の建物

弥生時代の建物には大きく分けて竪穴住居（建物）と掘立柱建物があります。竪穴住居は地面に穴を掘って床と壁をつくり、柱を立て、桁と梁を組み合わせる屋根をかけてつくります。

一方、掘立柱建物は地中に木柱を掘り立て、あるいは打ち込んで建てる建物で、床面は低い土間・床敷のものと高床のものとがあります。建物の上屋は不明な点が多いですが、鏡や刀の飾りに表現された建物や出土建築部材などから復元が試みられています。

古津八幡山遺跡における弥生時代の一般的な竪穴住居は、平面が四角形で、四隅が丸みをもつ「隅丸方形」の竪穴住居です。また、一边は 5 m 前後の大きさのものが一般的です。壁際には排水や湿度調整などのためと考えられる溝（壁溝）が巡ります。柱は基本 4 本柱で、中央には炉跡（焼土）があり、壁際中央には貯蔵穴が 1 つ設けられます。また、掘削した土砂を山側に周堤状に盛り上げ、さらに外側に周溝をもつものも存在します。



古津八幡山遺跡竪穴住居（第 14 次調査）

新たに見つかった掘立柱建物

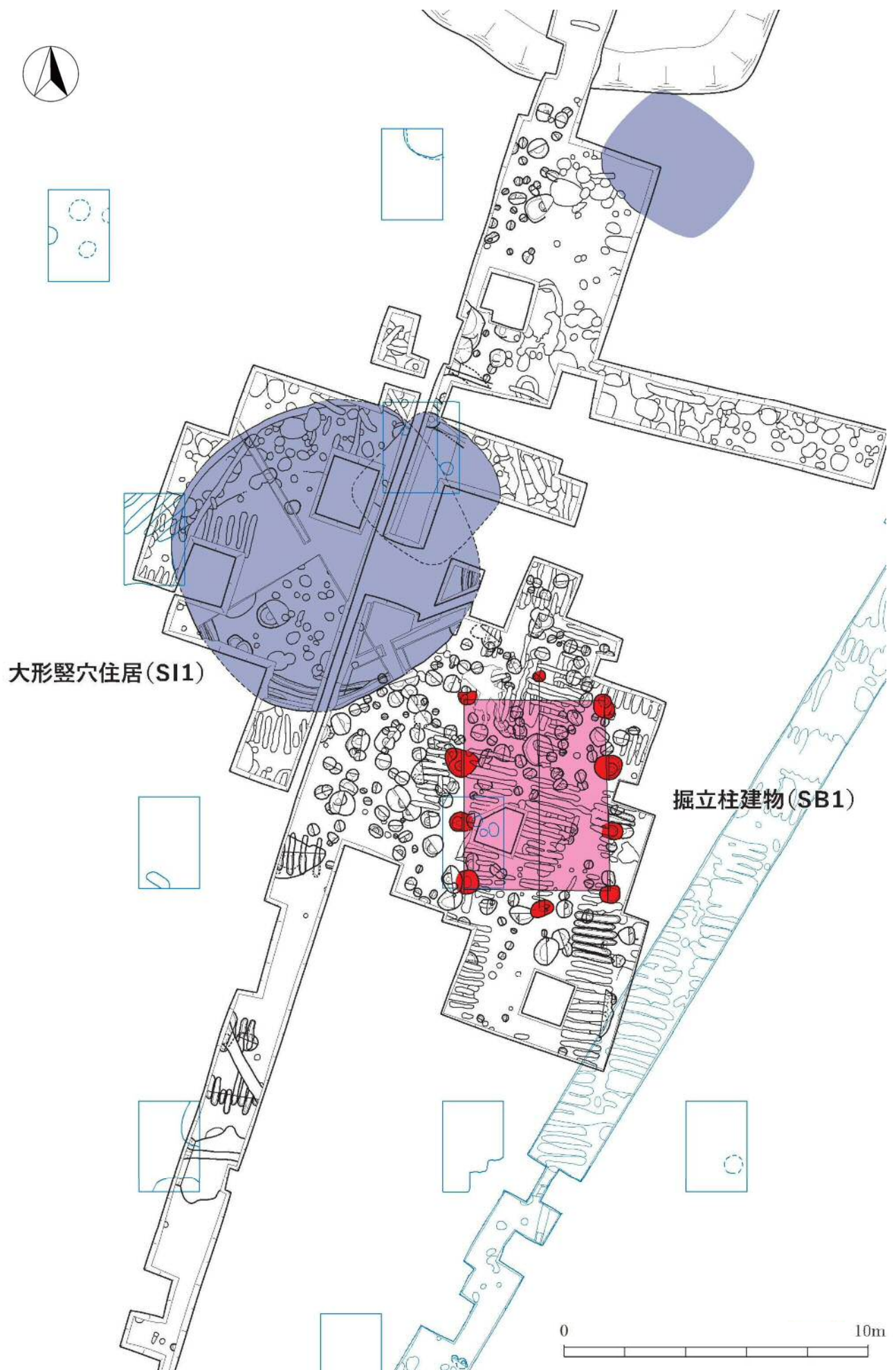
古津八幡山遺跡では、昭和 62（1987）年の第 1 次調査から平成 25 年の第 19 次調査まで、竪穴住居が 50 棟以上見つかっていましたが、掘立柱建物は見つかっていませんでした。それが、平成 29・30 年に実施した第 20・21 次調査において、初めて掘立柱建物が発見されました。

確認された掘立柱建物は、柱間が 1 間×3 間で、梁行約 4.5m、桁行約 6.2m の建物と考えられ、母屋面積約 28 m²を測ります。梁が長いことや、梁の中央外側で柱穴が対の位置で確認されたことなどから、この建物は独立棟持柱建物の構造になると推定されます。

なお、周辺でも多くのピットが検出されています。これらのピットから出土した遺物や、堆積した土の特徴などから、その多くは弥生時代の掘立柱建物の柱の穴と推測されます。そのため、弥生時代にはこの場所に複数の掘立柱建物が建てられていたと考えられます。



掘立柱建物（SB1）調査風景（南西から）



平成 29・30 年度発掘調査（第 20・21 次発掘調査）平面図

新たに見つかった大形竪穴住居

平成 29・30 年の発掘調査で見つかった竪穴住居（SI 1）は、やや丸みをもった隅丸方形の平面形で、一辺約 9.5m と、長さが古津八幡山遺跡で一般的な竪穴住居の約 2 倍もあり、面積にするとおよそ 4 倍にもなる大規模なものです。古津八幡山遺跡の竪穴住居の中では最大のものです。県内においても、この時期の竪穴住居としては最大級といえます。

この大形竪穴住居は、出土した土器から弥生時代の終わり頃（終末期）の住居と考えられます。なお、壁際に壁溝と考えられる溝が 2 条確認されていることから、一度住居の建て替え（拡張）を行っていると考えられます。



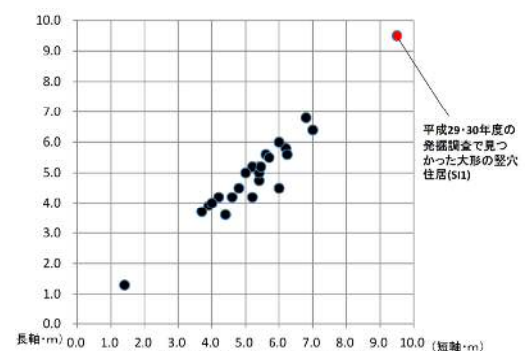
大形竪穴住居（SI1）全景（北西から）

古津八幡山遺跡の土地利用

弥生時代後期には、外環濠の内側を中心に竪穴住居が密に分布していることから、丘陵上の外環濠内部が主要な居住域として利用されていたと考えられます。

平成 29・30 年の発掘調査によって、北東側の標高約 25m と一段下がった空間で新たに掘立柱建物群が発見されました。掘立柱建物群の機能については今後の検討課題ですが、低地に比較的近く、水や米などの物資を運び入れるのに好都合な立地であることから、それら建物群の一部は倉庫であった可能性が推測されます。

一方、弥生時代の終わり頃になると竪穴住居の分布が外環濠の外側に広がる傾向が見られます。この時期はすでに外環濠の一部が埋まり、環濠の機能が低下している段階です。平成 29・30 年の発掘調査で見つかった大形の竪穴住居はその頃のものです。最高所にある前方後方形周溝墓も同じ時期と考えられ、この時期にムラの中で有力者が台頭してきたことを示唆します。



古津八幡山遺跡における竪穴住居の大きさ



古津八幡山遺跡掘立柱建物（SB1）
想像イメージ図



古津八幡山遺跡における弥生時代後期の土地利用図



古津八幡山遺跡における弥生時代終末期の土地利用図

県内における弥生時代の掘立柱建物

新潟県内における弥生時代後期・終末期の掘立柱建物の大きさはさまざまですが、3、4 m前後のものが多い傾向にあります。古津八幡山遺跡で初めて見つかった掘立柱建物（SB1）はこの時期の掘立柱建物としては大きいものといえます。なお、上越市の子安遺跡では一定数の掘立柱建物が存在しますが、いずれも1間×1間の小規模なもので、小屋などの簡易な建物が想定されます。

面積でみると、20 m²を超す掘立柱建物が存在するのは、古津八幡山遺跡のほかに、西岩野遺跡（柏崎市）、釜蓋遺跡（上越市）、蔵王遺跡（佐渡市）に限られます。この3遺跡でいずれも独立棟持柱建物がみられる点は注目されます。これら独立棟持柱建物の性格については、①神殿、②倉庫、あるいは③神殿かつ倉庫、といった可能性が指摘されています。独立棟持柱建物がつくられた背景について検討していく必要がありますが、いずれにせよシンボリックな建物であった可能性を推測させます。

新潟県における弥生時代後期・終末期のおもな掘立柱建物

新潟県遺跡名	市町村名	遺構名	短軸 (m)	長軸 (m)	母屋面積	柱間	備考
山元遺跡	村上市	SB1	3.18	3.60	11.4m ²	1間×1間	
堂の前遺跡	村上市	SB1	2.26	3.22	7.3m ²	2間×2間	
		SB2	2.26	2.44	5.5m ²	2間×2間	
		SB3	1.99	2.66	5.29m ²	1間×1間	
古津八幡山遺跡	新潟市	SB1	4.50	6.20	27.9m ²	1間×3間	独立棟持柱建物
西岩野遺跡	柏崎市	大型掘立柱建物	4.50	9.00	40.5m ²	1間×3間	独立棟持柱建物
吹上遺跡	上越市	SB147	3.00	3.10	9.3m ²	2間×2間	
		SB790	2.08	3.56	7.4m ²	1間×1間	
子安遺跡	上越市	SB20959	1.20	1.60	1.9m ²	1間×1間	
		SB21032	1.30	1.35	1.8m ²	1間×1間	
		SB21034	1.70	3.30	5.6m ²	1間×1間	
		SB21035	1.28	2.65	3.4m ²	1間×1間	
		SB21059	1.25	2.25	2.8m ²	1間×1間	
		SB21060	0.90	2.20	2.0m ²	1間×1間	
		SB21061	1.25	2.48	3.2m ²	1間×1間	
		SB21062	1.15	2.80	3.2m ²	1間×1間	
		SB21063	0.78	2.50	2.0m ²	1間×1間	
		SB21064	1.65	3.45	5.7m ²	1間×1間	
		SB21068	1.20	2.35	2.8m ²	1間×1間	
		SB21073	1.55	1.95	3.0m ²	1間×1間	
釜蓋遺跡	上越市	SB156	3.36	3.60	12.1m ²	1間×1間	
		SB157	3.76	5.44	20.5m ²	1間×3間	独立棟持柱建物
		SB158	3.28	3.76	12.3m ²	2間×2間	
		SB159	1.00	2.00	2.0m ²	1間×2間	
		SB160	1.92	2.16	4.1m ²	1間×2間	
		SB161	3.36	4.16	14.0m ²	1間×2間	
		SB162		6.00	—	?	
蔵王遺跡	佐渡市	SB1	4.80	4.90	23.5m ²	1間×1間	
		SB2	3.80	3.90	14.8m ²	1間×1間	
		SB3	3.10	3.20	9.9m ²	1間×1間	
		SB4	4.80	6.80	32.6m ²	1間×2間	
		SB5	4.00	4.70	18.8m ²	2間×2間	布堀
		SB6	4.47	4.80	21.5m ²	2間×3間	独立棟持柱建物
		SB7	3.10	4.50	14.0m ²	1間×1間	
		SB12	3.95	4.00	15.8m ²	1間×1間	
		SB13	4.60	4.75	21.9m ²	1間×1間	
		SB14	3.90	4.30	16.8m ²	1間×1間	

県内における弥生時代の堅穴建物

新潟県内における弥生時代後期・終末期の堅穴建物の平面形をみると、円形と隅丸(長)方形の2種類が確認できます。総体的には隅丸方形が大半を占めますが、村上市では円形の堅穴建物が多い傾向がうかがえます。

また、県内における堅穴建物の規模を見ると、一辺が5m前後のものが平均的な大きさといえます。古津八幡山遺跡で新たに見つかった堅穴住居(SI1)のように、一辺が9mを超えるものは非常に少ない状況です。

新潟県における弥生時代後期・終末期のおもな堅穴建物（古津八幡山遺跡を除く）

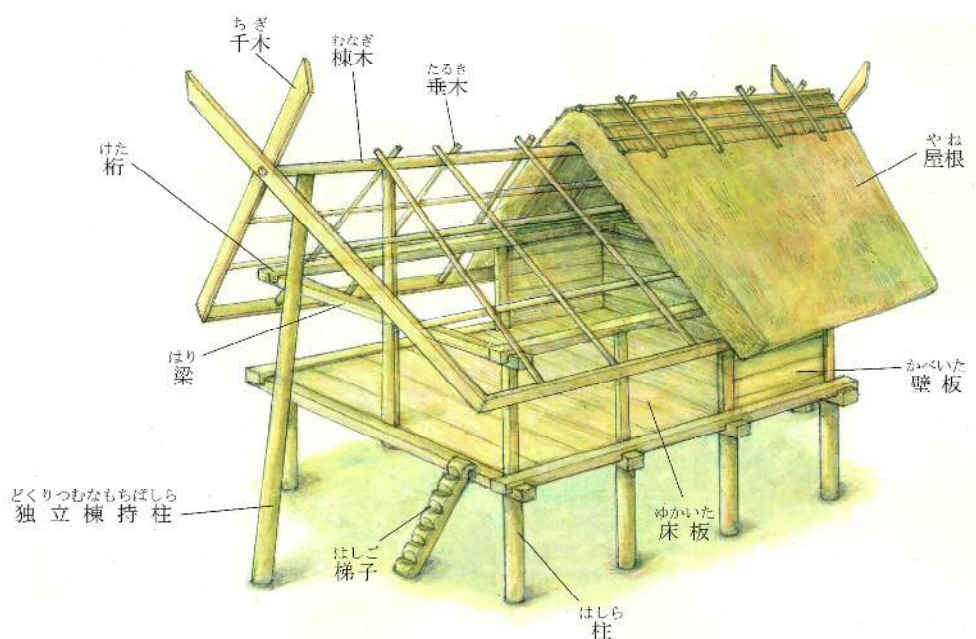
遺跡名	市町村名	遺構名	平面形	規模(m)	
				短軸	長軸
滝ノ前遺跡	村上市	第1号住居跡	円?	—	—
		第2号住居跡	円	5.5	5.7
		第3号住居跡	円	5.2	5.4
山元遺跡	村上市	1号堅穴建物	楕円	4.5	6.3
中曽根遺跡	村上市	SI40	楕円?	4.8	5.7
		SI41	楕円?	4.6	8.2
堂の前遺跡	村上市	SI318	楕円	4.5	5.5
大沢遺跡	新潟市	1号住居跡	隅丸方形	3.7	—
		2号住居跡	隅丸方形	3.0	3.0
		4号住居跡	隅丸方形	4.0	4.0
		6号住居跡	隅丸方形	2.0	2.0
経塚山遺跡	三条市	1号住居址	?	—	—
		2号住居址	隅丸方形	4.7	—
		3号住居址	隅丸方形?	—	—
岩沢遺跡	見附市	3号住居跡	隅丸方形	3.3	3.3
		4号住居跡	隅丸方形	4.0	4.8
		5号住居跡	隅丸方形	—	—
高稲場遺跡	見附市	1号住居跡	円形	5.0	5.0
山崎A遺跡	見附市	003住居跡	隅丸方形?	—	—
藤ヶ森遺跡	長岡市	堅穴住居跡	隅丸方形	6.3	7.0
横山遺跡	長岡市	1号住居跡	隅丸方形	5.0	5.0
		2号住居跡	隅丸方形	5.3	5.3
		3号住居跡	方形	4.4	4.4
		4号住居跡	隅丸方形	3.6	—
奈良崎遺跡	長岡市	SI4	円?	3.5	5.3
		SI12	円	9.6	—
		SI20	?	—	—
		SI105	隅丸方形	4.6	—
		SI102A	隅丸方形	3.5	3.7
		SI102B	方形	3.3	3.4
		SI1581	隅丸方形	—	—
大座寺御経塚遺跡	出雲崎町	1号堅穴建物	隅丸方形	6.3	6.3
内越遺跡	柏崎市	住居跡	隅丸方形	8.4	8.8
裏山遺跡	上越市	1号堅穴	隅丸方形	4.8	6.2
		2号堅穴	隅丸方形	4.7	5.6
		3号堅穴	楕円形	3.5	4.9
		4号堅穴	隅丸方形?	5.0	—
		5号堅穴	?	—	—
		6号堅穴	隅丸方形	3.7	4.1
		7号堅穴	隅丸方形	3.5	4.4
		8号堅穴	隅丸方形	3.4	4.2
下馬場遺跡	上越市	1号堅穴	円?	8.0?	—
		2号堅穴	隅丸方形	9.0	9.0
		3号堅穴	隅丸方形	5.0	5.0
		4号堅穴	隅丸方形	5.7	6.2
		5号堅穴	隅丸方形	4.5	4.8
		6号堅穴	隅丸方形	4.0	4.6
		7号堅穴	隅丸方形	8.8	8.8
		8号堅穴	隅丸方形	3.6	—
		9号堅穴	隅丸(長)方形	3.4	4.4
		10号堅穴	隅丸方形	3.5	—
		11号堅穴	隅丸方形	6.2	6.5
		12号堅穴	隅丸(長)方形	4.9	6.2
		13号堅穴	隅丸方形	4.9	5.9
		14号堅穴	隅丸方形?	—	—
山畑遺跡	上越市	7号住居跡	隅丸方形	5.1	5.9
吹上遺跡	上越市	SI688A、B	隅丸方形	—	—
		SI696A、B、C	隅丸方形?	—	—
子安遺跡	上越市	SI20239	隅丸(長)方形	6.8	9.6
		SI20240	隅丸(長)方形	6.8	8.4
		SI20631	隅丸方形	4.0	4.5
		SI20648	隅丸方形?	6.0	—
		SI20649	隅丸方形?	7.5	—
		SI20724	隅丸方形?	5.5	5.5
		SI20725	隅丸方形	9.0	—
荒町南新田遺跡	上越市	SI1356	隅丸(長)方形	3.5	4.3
釜蓋遺跡	上越市	SI41	隅丸方形	6.4	7.2
		SI83	隅丸方形	9.9	10.1
		SI1050	隅丸方形	11.0	11.2
		SI1271	隅丸方形?	—	—
		SI1274	長方形?	3.5	—
		SI1276	隅丸方形?	—	—
		SI1277	隅丸(長)方形?	—	—
		SI1278	?	—	—
		SI1280	隅丸方形?	—	—
		SI1282	隅丸方形	4.0	3.8
		SI1152	方形	12.0	14.4
		SI1581	方形	6.0	7.0
斐太遺跡群	妙高市	SI1568	方形	12.4	12.5
		上ノ平・矢代山地区1号	隅丸方形	6.0	6.0
		上ノ平・矢代山地区2号	隅丸方形	6.0	6.0
		上ノ平・矢代山地区24号	方形	5.0	5.0
		百両山地区第31号	方形	2.7	2.7
後生山遺跡	糸魚川市	矢代山墳丘墓群C支群SI1	隅丸方形?	5.2	—
		1号住居跡	円形?	7.0	—
		2号住居跡	隅丸方形	6.0	6.0
		3号住居跡	隅丸方形	6.3	—
		4号住居跡	隅丸方形	—	—
堰下遺跡	津南町	1号住居跡	隅丸方形?	3.6	4.6
		2号住居跡	円?	5.5	—
蔵王遺跡	佐渡市	SI1	隅丸方形	4.7	5.1

おわりに

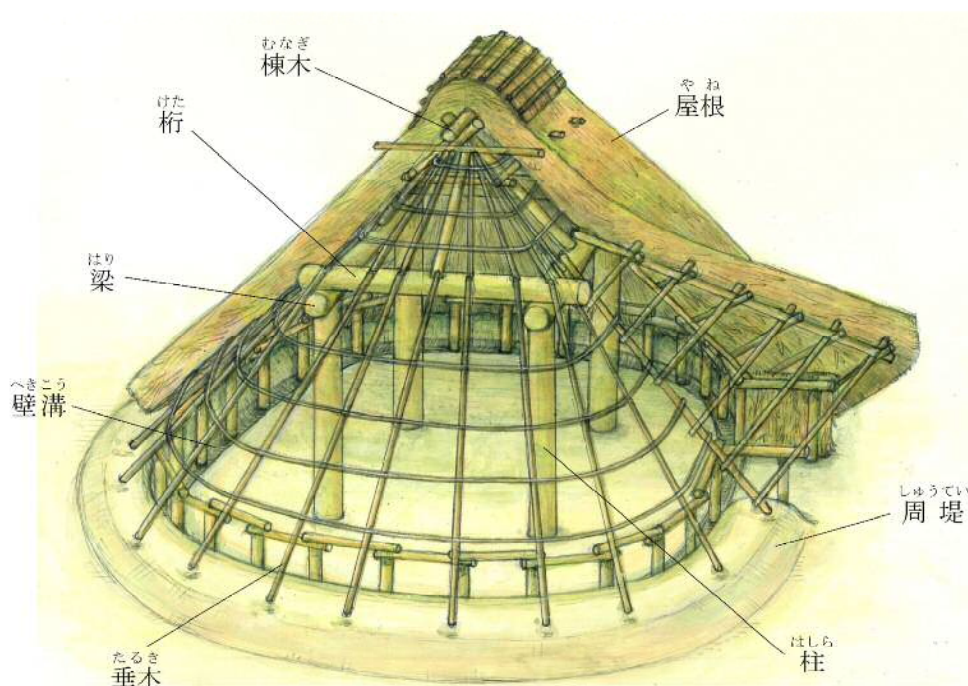
古津八幡山遺跡が発見されてから 30 年以上が経過しました。これまでに遺跡全体の約 1 / 3 が発掘調査され、弥生時代の集落や古墳時代の古津八幡山古墳の状況などが明らかになってきました。

一方、まだ不明な点も多く存在しています。平成 29 年度から再開した発掘調査は、史跡内外において調査が不十分な場所の状況把握を目的とした発掘調査です。その結果、遺跡の北東地区において、古津八幡山遺跡で初めて掘立柱建物が見つかり、また、これまでに見つかっている中で最大の竪穴住居が発見されるなど、当時の社会を考えるうえで重要な発見が相次いでいます。

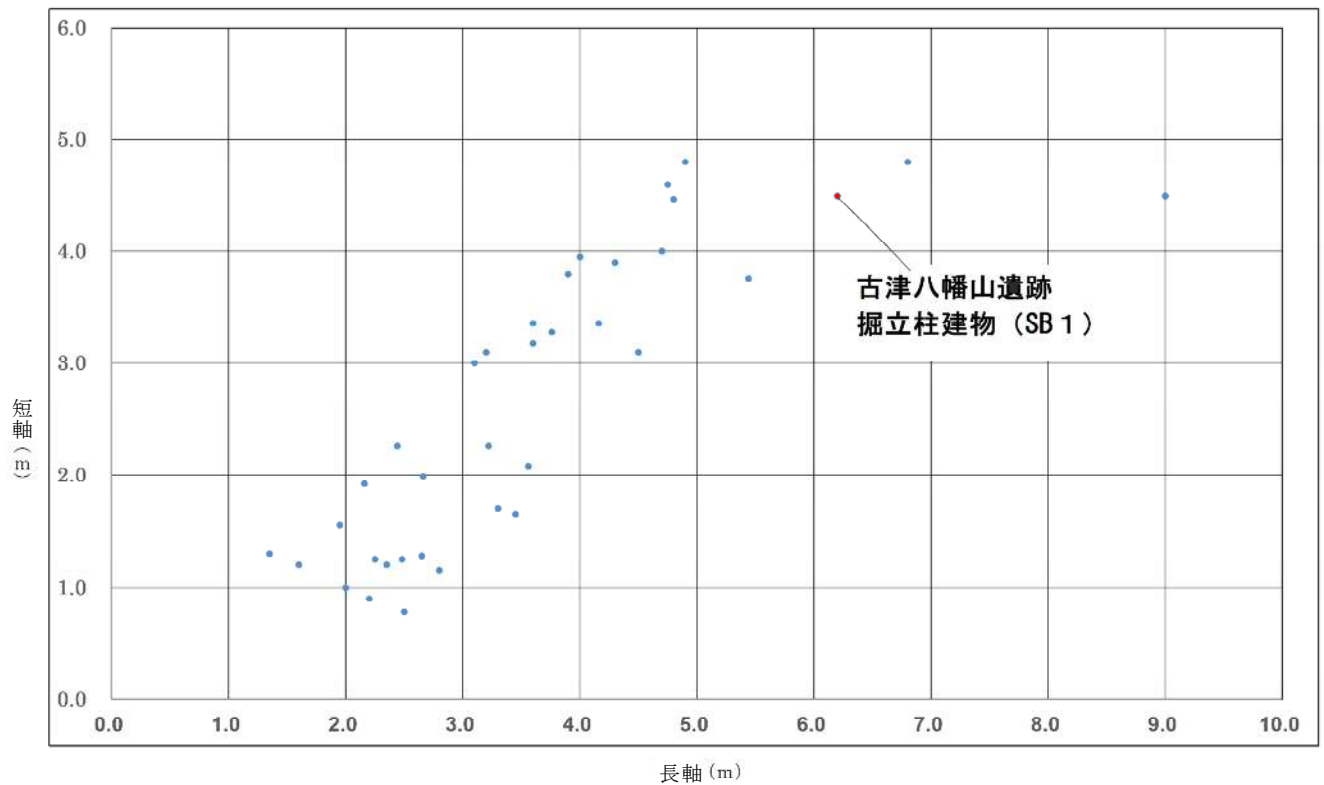
さて、大形の竪穴住居がつくられた時期は弥生時代の終わり頃の時期で、各地の豪族が大きな墳墓を築く古墳時代の直前にあたります。大形の竪穴住居の性格や機能の解明については今後の課題といえますが、古津八幡山遺跡の最高所に築かれた前方後方形周溝墓もこの時期と推測され、次の古墳時代の豪族へとつながる有力な首長層が台頭してくるなど、社会が大きく変わっていく当時の社会情勢を反映している可能性があります。



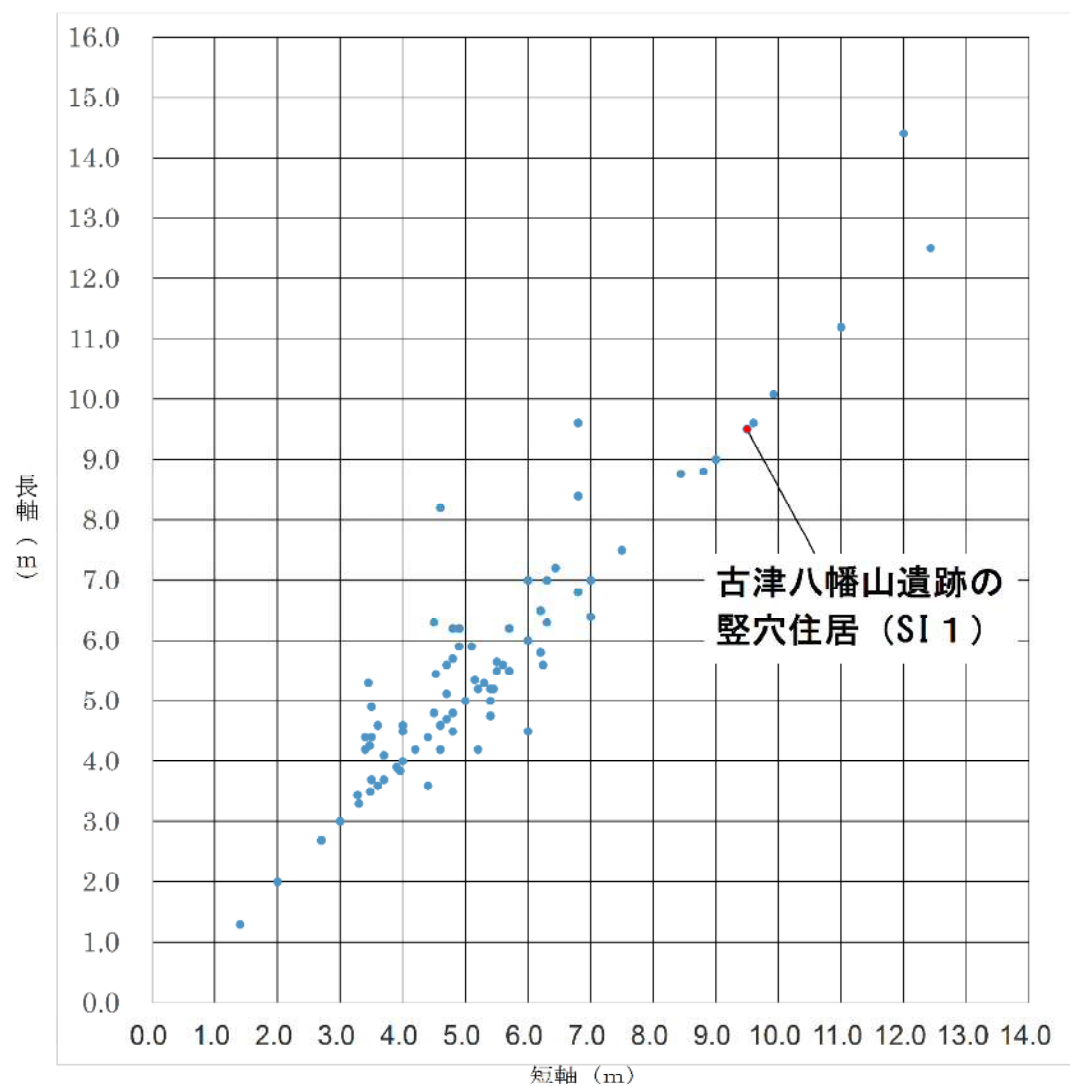
古津八幡山遺跡掘立柱建物 (SB1) 想像イメージ図



古津八幡山遺跡大形竪穴住居 (SI1) 想像イメージ図



新潟県における弥生時代後期・終末期のおもな掘立柱建物



新潟県における弥生時代後期・終末期のおもな竪穴建物